

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予察速報第3号について

このことについて、病虫害発生予察速報第3号を発表したので送付します。

速報第3号

水 稲

- 1 対象作物：水稲
- 2 病虫害名：イネ縞葉枯病・ヒメトビウンカ
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生時期：並
- 5 発生量：やや多
- 6 速報の根拠
 - (1) 平成21年5月5半旬、県下25地点の小麦ほ場で20回すくい取り法によりヒメトビウンカ第1世代幼虫の密度調査を行った結果、平均約46頭で（表）、過去18年間の平均約22頭、前年の平均約9頭より多かった。
 - (2) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は県下平均8.4%で、保毒虫率が高くなり始めた平成15年から6年間の平均5.1%よりも高く、前年の平均6.4%よりもやや高かった（平成21年4月23日付技術情報）。
 - (3) イネ縞葉枯病の発生量は、ヒメトビウンカの密度と保毒虫率が高い場合に多くなるとされている。
- 7 防除上注意すべき事項
 - (1) 麦類作付ほ場付近に水稲を早植えする場合は、麦収穫後にヒメトビウンカが侵入しやすいので、本虫の飛来に注意し、防除を行う。成虫の飛来時期は不確定であるが、過去には6月中旬頃飛来した例もあり注意する。
 - (2) 本田では、成虫飛来の7～10日後からふ化幼虫が現れるので、ふ化幼虫を対象とした防除を実施すると発病抑制効果が高い。成虫の飛来時期は6月中旬～下旬と考えられるが、地域による差が大きいことから、各々の圃場における飛来時期の把握に努める。

- (3) 例年ヒメトビウンカやイネ縞葉枯病の発生が多い圃場では、必ず箱施薬剤を適期に適量処理する。なお、処理後に茎葉に薬剤が付着したままでは薬害が発生しやすいので、処理後はかん水を行う。また、ヒメトビウンカに対する薬剤感受性の低下が見られる地域があることから、箱施薬剤の防除効果が低い場合は、(1)、(2)を参考に本田での防除を行う。
- (4) 播種・育苗がこれからのところでは、苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類栽培ほ場付近での育苗を避ける。
- (5) ヒメトビウンカの発生状況については、予察情報等で提供するので参考にする。

表 小麦におけるヒメトビウンカの密度及び保毒虫率

調査地点	ヒメトビウンカ密度(注1) (頭/20回片振り)	保毒虫率(注2) (%)
筑紫野市阿志岐	18	8.5(注3)
宗像市朝町	110	7.5
宗像市河東	-	8.5
二丈町波呂	57	-
久留米市宮の陣	27	-
久留米市太郎原	25	4.3
久留米市田主丸町	61	-
小郡市力武	70	-
うきは市浮羽町北山	53	11.7
朝倉市馬田	84	-
朝倉市田中	45	-
朝倉市菱野	20	9.6
筑前町久光	74	-
太刀洗町富田	31	-
嘉麻市中益	34	5.3
添田町落合	-	8.5
糸田町打越	25	-
柳川市大浜町	17	-
八女市立野	73	-
筑後市馬間田	36	3.2
大川市北古賀	105	-
みやま市高田町	17	4.3
みやま市瀬高町	60	-
黒木町木屋	53	5.3
岡垣町黒山	-	5.3
行橋市辻垣	-	10.6
みやこ町勝山	109	21.3
上毛町八ツ並	20	-
上毛町土在井	26	-
平均	46.3	8.4

注1：齢構成は、成虫1.6%、幼虫98.4%

注2：保毒虫率は、越冬幼虫を対象に検定(平成21年4月23日付技術情報参照)

注3：保毒虫率調査地点は筑紫野市油須原

注4：-は調査なし